

エンカウンターを導入した心に残る授業の研究

- 「子供の発達と保育・福祉」領域での実践 -

立 高等学校 (家庭科)

1 はじめに(設定の理由)

心に残る授業とは、生徒の感情が動き、揺さぶられる体験を伴うものである。家庭科は実習や体験学習を多く取り入れており、参加型の学習形態が根付いている。このような授業形態の重要性は今後増していくと考えている。これまで、実習、実験、体験学習やディベート学習など様々な手法を試行錯誤しながら、授業に組み入れてきた。今回はその中でも、構成的グループエンカウンターという手法に注目し、意図的に生徒たちに感情交流を体験させ、主体的に、楽しく、そして効果的な授業展開を考えていきたい。

エンカウンターの手法を家庭科の授業として活用する場合、人の人間形成に関わる学習である「人の一生と家族・家庭」、「子供の発達と保育・福祉」、「高齢者の生活と福祉」領域が取り入れやすく、学習効果が高いと感じている。同時に、これらの学習内容は従来の実験・実習が取り入れにくい領域でもある。今回は、研究領域を「子供の発達と保育・福祉」に設定し、自己・他者を理解し、次世代を育てていくことの大切さを心で感じられるような授業を実践してみたい。この学習が生徒一人一人の肉体的な成長につながっていくことを願っている。

2 研究計画

(1) 本校生徒の状況

- ア 千葉県立小金高等学校(平成19年度)
- イ 千葉県立流山高等学校(平成20年度)

(2) 本校生徒の意識調査

- ア 事前アンケート調査と結果(生徒が求める授業像について)
- イ 考察

(3) 構成的グループエンカウンターとは

- ア 定義
- イ 家庭科の授業に活かす構成的グループエンカウンター

(4) 「子供の発達と保育・福祉」領域での指導実践

- ア 学習計画
- イ エンカウンターを活用した授業実践例

(5) 考察

- ア 事後アンケート調査と生徒の感想
- イ 考察と今後の課題

3 研究内容

(1) 本校生徒の状況

- ア 千葉県立小金高等学校(平成19年度)

本校は松戸市の北西部に位置し、昭和40年に創立された全日制普通科の共学校である。現在、各学年7学級で構成され、男女比はほぼ同数である。生徒の在住地域は、松戸市を中心に比較的広範囲から通学している。本校の特色は学業と生徒会活動(行事や部活動、委員会活動)の両立である。生徒の大半(97%)は4年制大学への進学を希望しており、大学進学に向けて学業に積極的に取り組んでいる。それと同時に、文化祭や合唱祭などの生徒会活動に熱心に取り組む姿勢が印象的である。部活動への加入率も80%と高くなっている。

イ 千葉県立流山高等学校（平成20年度）

本校は流山市のほぼ中央部に位置し、昭和44年に創立された全日制共学校である。園芸科、生活科学科、会計科、情報処理科の4学科を併設し、1学年4クラスで構成されている。生活科学科では農業科目を軸に、専門教科「家庭」の科目を幅広く設定しており、家庭科の必修科目として、「家庭総合」「フードデザイン」「生活教養」、選択科目として「発達と保育」「家庭看護・福祉」「リビングデザイン」「被服基礎」を開講している。生徒の進路状況は、就職が約50%、大学・短大・専門学校等の進学が約50%である。

(2) 本校生徒の意識調査

ア 事前アンケート調査と結果（生徒が求める授業像について）

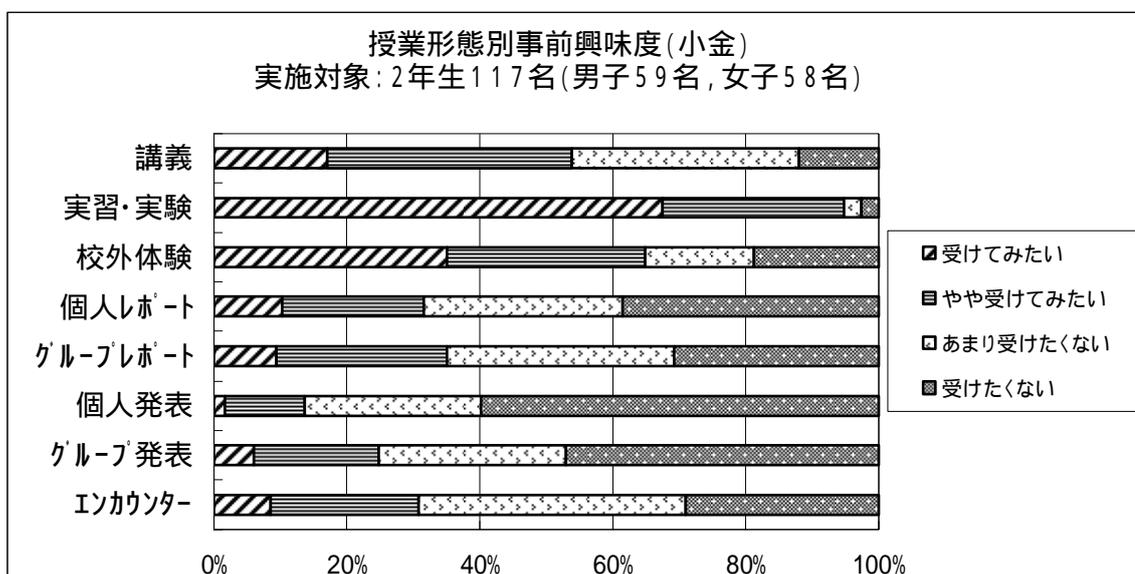
近年、従来の教師主導の授業から生徒が主役で主体的に学ぶ授業への注目が集まっている。家庭科の授業では以前より実習や体験を伴う授業が多く実施されているが、実習を除けば講義形式の授業が一般的である。実習ではいきいきと活動する生徒の表情が講義では下を向きがちになる様子が気になり、生徒主役の授業方法を考え試行錯誤をしている。生徒たちはどのような授業形態を望んでいるのかについて、アンケートを実施した。

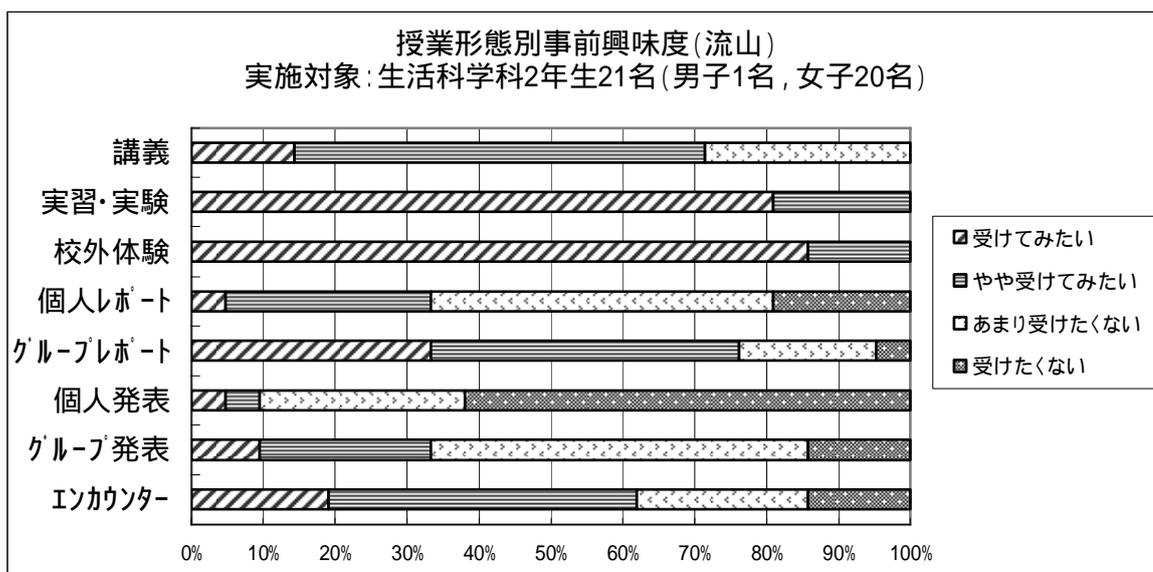
アンケート内容

あなたが望む（受けてみたい）家庭科の授業形態について教えてください。
 次の項目について、あなたの気持ちに近いものを ~ の中から選んでください。
 受けてみたい やや受けてみたい あまり受けたくない 受けたくない

- 1 先生の説明を聞く授業（講義）
- 2 実習や実験を行う授業（実習・実験）
- 3 学校以外の場での実習や体験学習（校外体験）
- 4 個人で課題について調べ、レポートを作成する授業（個人レポート）
- 5 グループで課題について調べ、レポートを作成する授業（グループレポート）
- 6 個人で調べたことについて個人で発表する授業（個人発表）
- 7 グループで調べたことについてグループで発表する授業（グループ発表）
- 8 グループで互いの意見や感じたことを交換し、互いに考え学んでいく授業（エンカウンター）

アンケート結果





イ 考察

生徒が望む授業形態として、実習・実験、校外体験への支持が非常に高い。次いで講義への支持となっており、生徒の授業への取り組む姿と一致している。一方、アンケートをとった時点で生徒が体験していないレポート作成や発表、エンカウンター形式の授業への支持率は総じて低い傾向にある。体験していない授業へのイメージがつかみにくいことが原因だと考えられが、エンカウンターを実施後に生徒がどのように感じるかを探ってみたい。また、ほとんどの項目について流山高等学校生活科学科の興味度が小金高等学校を上回っているが、母集団の人数の違いはあるとしても、生活科学科の生徒は保育学習に興味や意欲を持っており、そのため学習形態にかかわらず興味度が高くなっていると考えられる。

(3) 構成的グループエンカウンターとは

ア 定義

構成的(注1)グループエンカウンター(注2)とは、國分康孝氏により紹介、提唱された心理教育である。リーダー(指導者、教師など)が用意したプログラムに沿い、参加者はグループを通してエクササイズ(課題)を行い、その体験を通じて感じたことをシェアリング(わかちあい)する。こうした一連の体験の中で、本音の感情交流をし合う。

*注1: 構成的

話し合いのテーマ、グループのサイズ、エクササイズの内容、時間配分をリーダーが指定し、枠を与えること。枠を与えることで、心理教育の専門家でなくとも(教師も)リーダーとなることができる。

*注2: エンカウンター

本音と本音の交流や感情交流ができるような関係、体験

イ 家庭科の授業に活かす構成的グループエンカウンター

構成的グループエンカウンターは、学校教育の分野で多くの実践があり、主に進路指導やLHR、総合的な学習の時間に活用されている。エンカウンターは個人の価値観を自覚させ、他の人の価値観を共有するようなエクササイズが多数あり、家庭科の授業で活用する場合、「生き方」や「人間発達」に関する分野での活用が考えられる。

エクササイズの事例（波線部は本研究での授業実践例）

領域	題名	目的	内容	時間
青年期と自立	私の特徴は？	簡単なテスト（日常行動質問紙）を利用し、自己や他者の特徴を客観的にとらえ、今後の課題を明らかにする。	青年期の課題について学び、日常行動質問紙に答えグラフを作成。グラフよりクラスを4つのグループに分け、自分達の特徴について話し合う。その後解説を聞き、自分の今後の課題を考え、伝え合う。	50分
	<u>実践例1</u> 私の印象は？	客観的な自己理解のために、友人からみた自分の情報を集める。自己盲点に気づくことで、自己発見へとつなげる。	青年期の特徴やジョハリの窓について学んだ後、グループになる。メンバーの印象を季節や動物、植物などに例え、その理由をワークシートへ記入。書いた内容を伝えあう。その体験を通じて感じたことを伝えあう。	50分
生活設計	様々な生き方	多様な生き方、価値観を認め、自分のライフスタイルについて考える	男女6人の生き方を読み、好きな順位と理由を記入。グループになり意見交換をする。その後もう一度好きな順位をつけ、感じたことを伝え合う。	50分
	仕事の選択	職業選択における自分の価値観を明らかにし、ライフスタイルについて考える。	仕事を選ぶ基準8つに順位をつける。グループになり、順位とその理由について意見交換をする。その後、もう一度順位をつけ、感じたことを伝え合う。	50分
高齢者の介護	車いす体験	車いすで介助される体験、介助する体験を通して他者理解の視点を育てる。	車いすの基本的な操作について学び、グループに分かれ、校内を車いすで移動し、介助される側、する側の体験を行う。体験後それぞれの立場で気づいたこと、校内の設備について感じたことを話し合う。	50分
子供の生活と遊び	<u>実践例2</u> 絵本の読み聞かせに挑戦！	絵本を読み、読んでもらう体験を通し、絵本を通じた子供との関わり方を学び、遊びの意義、大切さを考える。	絵本を選択し、テーマを考える。読み聞かせのポイントを学び、絵本を読む練習後、グループ内で互いに読み聞かせをする。読む立場、読んでもらう立場でそれぞれ感じたこと、気づいたことを伝え合う。	50分
親の役割と保育	<u>実践例3</u> 聴き上手を目指そう！	自分の感情を受けとめてもらえる体験、相手の感情を受けとめる体験を味わい、話を聴くことの大切さに気づき、子供との関わり方を考える。	2人組を作り、子供とその親になったつもりで設定された場面でのロールプレイを行う。役割交代の後、4人組になり感じたことを伝え合う。どのようなことに心がけると話し手は安心できるのかを考える。	50分

(4)「子供の発達と保育・福祉」領域での指導実践

ア 学習計画（波線部は授業実践例）

家庭総合（4単位）「子どもの発達と保育・福祉」分野の指導計画（13時間配当）

千葉県立小金高等学校（平成19年度）

* S G E = 構成的グループエンカウンター

指導項目	配時	学習内容	主な授業形態
1, 青年期と自立	1	私の特徴は？	S G E
	1	<u>「私の印象は？（実践例1）」</u>	S G E
2, 豊かな発達を求めて	1	胎児の発育と命の誕生 ビデオ視聴「赤ちゃんこのすばらしい命」	講義, ビデオ視聴
	2	乳幼児のからだの発育・発達	講義(疑似体験含む)
3, 心地よい生活を作る	1	子供の生活と保育1（基本的生活習慣, 食生活）	講義
	2	子供の食事をつくる 献立「ちらし寿司, 豆腐入りみたらし団子」	調理実習
	1	<u>「絵本の読みきかせに挑戦（実践例2）」</u>	S G E
	1	子供の生活と保育2（遊びで育つ）	講義
	1	集団で育つ ビデオ視聴「サクランボ坊や」	講義, ビデオ視聴
4, 親になるということ	1	親の役割と子どもの人間形成	講義
	1	<u>「聴き上手を目指そう！（実践例3）」</u>	S G E

* 人の生涯にわたる発達段階の中で乳幼児期を捉えるため、現在の発達段階である青年期の学習を「子供の発達と保育」領域の導入として位置づけている。

発達と保育（2単位）の年間指導計画

千葉県立流山高等学校（平成20年度）

* S G E = 構成的グループエンカウンター

指導項目	配時	学習内容	主な授業形態
1, 人間としての発達	2	人間発達のなかの青年期 <u>「私の印象は？（実践例1）」</u>	S G E
	2	人間発達の中の乳幼児期	S G E
2, 乳幼児の発育・発達	2	胎児の発育と命の誕生	講義, ビデオ視聴
	2	乳幼児の発育の特徴	講義(疑似体験含む)
	2	乳幼児の精神発達	講義
	4	対人関係の発達, 親子関係と子どもの発達 <u>「聴き上手を目指そう！（実践例3）」</u>	講義 S G E
3, 子どもの生活	4	子どもの遊び <u>「絵本の読みきかせに挑戦（実践例2）」</u>	講義, S G E
	6	子どもの食生活（調理実習含む）	講義, 調理実習
	10	子どもの衣生活（おむつの吸水実験, 被服製作含む）	講義, 実験, 被服実習
	2	子どもの健康管理	講義
4, 乳幼児の保育	2	家庭保育と集団保育	講義, ビデオ視聴
	12	保育実習（準備からまとめを含む）	グループ研究, 発表 保育実習 個人レポート作成

イ エンカウンターを活用した授業実践例

実践例1「青年期と自立～私の印象は?～」

目的 青年期の特徴を理解する。 客観的な自己理解を進め、自己発見へとつなげる。

場面	時間	教師の説明, 指示()と生徒の学習活動(○)	指導上の留意点	評価
インストラクション	15分	<p>人の発達段階には様々な見解があります。発達心理学者のエリクソンは人の発達を7つの段階にわけ、それぞれの発達段階には乗り越えなければならない発達課題があると考えました。皆さんは今青年期に位置し、自分を再構築する大切な時期を生きています。</p> <p>○青年期の特徴をプリントにまとめる。</p> <p>自己同一性の確立を促すには、自己理解を深め、自己決定・自己表現をしていくことが大切です。今日は客観的な自己理解のために、自分について4つの領域に分類する「ジョハリの窓」を紹介します。自己理解を深めるためには「開放領域」を広げることが有効です。そのために周囲の人が自分をどのように思っているかに耳を傾けてみましょう。</p>	<p>人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家庭科では乳幼児期や高齢期など人の一生について学んでいくことを確認する。</p> <p>今日のエクササイズは「盲点領域」を広げることにより、開放領域を広げ自己理解を深めるワークであることを伝え、エクササイズの目的を明確にする。</p>	<p>人の発達段階と青年期の特徴について理解できたか。 (知識・理解)</p> <p>ジョハリの窓について理解できたか。 (知識・理解)</p>
エクササイズ	15分	<p>5人グループをつくります。プリントの裏に動物の名前を書いてあるので、同じ動物の人を探してグループになってください。</p> <p>リーダーを決めます。リーダーの役割はグループ内の進行役です。</p> <p>次に、メンバーの印象を季節や月、動物や植物に例えてプリントに記入してください。例えば、春は早春、陽春などより具体的に書くといいですね。</p> <p>メンバーの印象を考え、季節や動物に例えプリントに記入する。</p>	<p><u>5人前後のグループがよい。分け方は臨機応変でよいが、遊びの要素があると生徒が参加しやすい。</u></p> <p>他者を否定するような表現はしないよう、注意を促す。</p>	<p>自主的にグループになり、積極的にエクササイズに取り組めたか。 (関心・意欲・態度)</p>
	10分	<p>それでは発表です。リーダーは発表の順番を決めてください。例えた季節や動物、その理由を伝えます。</p> <p>○お互いの印象を伝え合う。自分の印象について、伝えられたことをプリントに記入する。</p>	<p>作業中は話し合いや相談をさせない。</p> <p><u>リーダーを決め、進め方を明確に指示する。</u></p>	<p>適切な言葉を用い、相手に自分の気持ち考えを伝えられたか。(技能・表現)</p>
シェアリング	7分	<p>自分の印象を聞いてどのように感じましたか?お互いに伝え合ってください。</p> <p>今日の学習を通して、気づいたこと、感じたことを伝え合ってください。</p> <p>○自分について新しく気づいたこと、再認識したことなどを話し、プリントの「振り返り」に記入し、提出する。</p>	<p>エクササイズだけで終わってしまうと自己洞察が進まないため、振り返りを促す。</p>	<p>エクササイズを通して自己理解を深め、それを表現できたか。 (思考・判断)</p>
まとめ	3分	<p>自分の印象はどうでしたか?予想通りの人も意外だった人も、自分について考えるきっかけになったと思います。青年期には青年期の課題があるように乳児期、幼児期にもそれぞれ課題があります。次回は乳幼児期について考えていきましょう。</p>	<p>次回の乳幼児期の学習につなげる。</p>	

《生徒をのせるちょっとしたコツ》

コツ	グループ作りは、生徒にとって第一のハードルであると同時に、エクササイズへの第1歩でもあります。好きなもの同士や席の近くの人でも悪くはないのですが、クラスの状態によっては難しい場合もあり、何よりも面白みがありません。そこで、手間も時間もかからず、生徒の意表をつくグループ分けの方法を紹介します。プリントの裏に干支や動物、番号などグループ名を小さく書いておきます。プリント配布後に、裏を見させて同じグループ名で集合させます。教師側の意図的なものが働かないほうが、生徒もれるのではないのでしょうか。
コツ	エクササイズはしっかりとした役割分担と時間の管理が大切です。たとえば、このエクササイズに10分間で互いの印象を伝え合う場面がありますが、10分間を生徒に管理させるのではなく、1人について印象を伝える時間を5回設定し、ストップウォッチなどを用いて時間を管理していきます。そうすることで、早く終わる班と遅く終わる班の差も出ず、メリハリが出て、生徒も参加しやすくなります。

《授業プリント》

青年期と自立～私の印象は？～

【青年期とは？】

① 人の一生には発達段階がある→それぞれの発達段階には課題がある（by エリクソン）
例：乳児期 幼児期 児童期 青年期 成人期 壮年期 高齢期

② 青年期とは（ ）歳の年代

③ 心身の劇的な変化の時期

*15歳は「第2の誕生」の時期（by ルソー）
「私たちは2回この世に生まれる。1回目は（ ）するために2回目は（ ）ために」

*青年期は（ ）の確立の時期である（by エリクソン）

【自己同一性を確立するためには？】

1、自己理解
2、自己決定
3、自己主張、表現

資料：ジョハリの窓

解放領域	自分も知っている 他人も知っている	盲点領域	自分は気づいていない 他人は知っている
隠蔽領域	自分は知っている 他人は気づいていない	未知領域	自分も気づいていない 他人も気づいていない

【私の印象は？～自己理解を深めよう！～】
今日のテーマは「自己理解」です。

人間には自分が理解し他人にも理解されている部分は以外に少ないものです。自分を理解することは青年期の大きな課題であると同時に、一生のつづくテーマでもあります。今日は、他の人から見た自分について耳を傾けてみましょう。もちろん、他人をわざと傷つけるようなことはルール違反です！それでは楽しい時間をすごしていきましょう！

1. メンバーは確定しましたか？まず、リーダー（司会）を決めてください。
2. それではまず、自分が考えるメンバーの印象を項目のテーマに例えて書いてください。

氏名					
項目					
季節（月）に例えて					
動物に例えたら					

3. 自分が書いた内容について発表します。自分の印象について、記録をとりましょう。

私の印象

氏名	さん	さん	さん	さん	さん
項目	からの印象	からの印象	からの印象	からの印象	からの印象
季節（月）に例えて					
動物に例えたら					

4. 振り返り

①今日の授業を通して、青年期について感じたり考えたりしたことを自由に書いてください。

②今日の授業を通して、自分について気づいたり感じたことを自由に書いてください。

2年組番氏名（ ）

実践例 2 「絵本の読み聞かせに挑戦!」

目的： 絵本の扱い方，子供との関わり方を学ぶ。

読んでもらう体験から子供の気持ちを理解し，絵本の役割を考える。

場面	時間	教師の説明,指示()と生徒の学習活動(○)	指導上の留意点	評価
インストラクション	12分	今日は絵本の読み聞かせにチャレンジしてもらいます。子供の心を動かす読み方を練習し、絵本を読んでもらった子供の気持ちも味わってもらいたいと思います。 まず読む本を決めます。班に4冊の絵本を配布してあります。好きな本を選び、黙読してみましよう。○絵本を選び黙読する。 次にその絵本を通して子供達に伝えたいこと、絵を活かす読み方を考えながらもう一度読んでみます。 絵本のテーマを考え、伝えたいことをプリントに記入。	4人程度のグループで着席させる。 <u>グループごとに絵本を用意しておく。</u> <u>(事前に教師側で絵本のテーマや長さを考え選択する)</u>	絵本を選び、学習に積極的に取り組んでいるか。 (関心・意欲・態度) 絵本のテーマを考えられたか。 (思考・判断)
	5分	声に出して読んでみます。子供は文字ではなく絵を見てストーリーを追っていくので、絵本はよく開いて絵がよく見えるように持ちます。声の大きさは、聞いている子供達の数によりますが、今回はグループの人によく聞こえるように、伝えたいことを意識しながら読みます。では一度自分で練習してみましよう。各自絵本を持って声に出して読んでみる。	実際に教師が絵本をもち、読み方を示すとわかりやすい。 (前の時間に教師の読み聞かせを示しておく、練習時間を確保できる。)	読み聞かせの方法を理解できたか。 (知識・理解) 絵本を読む練習に取り組んでいるか。 (関心・意欲・態度)
エクササイズ	25分	絵本の裏表紙に番号が書いてあります。その番号がグループで読む順番です。 プリントの手順で進めていきます。まず、最初の人を読みます。読み手は、読み終わった後に、読んだ感想と伝えなかったことを読み手へ伝えます。次に聞き手はプリントに感想、よかった点や改善点を記入し、読み手に伝えてください。 読んでもらう役割のときは、子供の頃に戻ったつもりで楽しんでください。文字を読むのではなく絵を見てください。 <u>それでは、読んでもらう子ども役の人には拍手を始めましよう!</u> ○順番に読み聞かせをする。プリントに感想などを記入する。	<u>絵本の長さの短いものから番号をつけておき、グループによる時間の差があまりでないように配慮する。</u> 読む体験だけでなく、読んでもらう体験から子供の気持ちや絵本の楽しさ、効果に気づかせたい。	読み聞かせに取り組み、効果的な絵本の読み聞かせができたか。 (技能・表現) (関心・意欲・態度) 友人の読み聞かせの良い点や改善点を考えたか。 (思考・判断)
シェアリング	5分	今日の学習を通して、効果的な絵本の読み方や子供とのかかわり方について発見はありましたか。また、子供にとって絵本はどんな役割があると感じましたか。気づいたこと、感じたことを話し合ってください。 ○気づいたこと、感じたことなどを話し、プリントの「振り返り」に記入し、提出する。	本の読み方、子供とのかかわり方、遊びの意義について、気づきが得られるように振り返りを促す。	本の読み方、子供とのかかわり方、遊びの意義について、気づきが得られたか。 (思考・判断)
まとめ	3分	子供は遊びの中で育っていきます。絵本を利用することで、大人からの働きかけを受けながら子供は成長していきます。	テレビとの違い、交流できる遊びの大切さに触れる。	

《本の準備と生徒をのせるちょっとしたコツ》

コツ	学校の図書館に絵本がない場合、準備を考えると大変さが先に立ってしまいます。今回、絵本を人数分そろえるために、校内の図書館と連携して絵本の選択はすべてお任せしました。県立図書館は、公立図書館、高等学校と連携し、本の団体貸し出しとして、絵本を巡回バスで学校まで届けてくれます。さらに絵本リストの紹介や絵本の選択もしてくれています。今回は3分以内で読める絵本をリクエストし、50冊程度届けていただき、その中から40冊を選びました。
コツ	絵本の読み聞かせにかかる時間がグループごとに差が出てしまうと時間の管理がしにくくなるため、本の長さ別に分けておき、進行は教師が行い、どのグループも同じ速さで進められるようにしました。
コツ	読む生徒は緊張したり照れたりしがちです。読み聞かせを始める前に、「始めます。拍手！」と声かけをして、子供役の生徒の拍手を合図に始めると、雰囲気がよくなり、読む生徒がすんなりと始めてくれました。

《授業プリント》

絵本の読み聞かせに挑戦!

声に出して絵本を読み、他の人が読むのを聞き、絵本の世界を味わいましょう。絵本を通した子供とのかかわり方について学び、遊びの意義や大切さについて考えていきましょう!

1 読む本は決まりましたか? まずは黙読をしてみましょう。

《ポイント》①絵本のテーマは何だと思えますか?あなたが伝えたいと感じたことは何ですか?

題名	作者
この絵本で何を伝えたいと感じましたか?	

2 それでは声に出して読んでみましょう

《ポイント》子供はストーリーを絵で追っていきます。絵を活かす読み方を考えましょう。

- ①絵本をよく開きます。
- ②ページのめくり方に気をつけます。
 - ・ 腕で絵が見にくくならないように
 - ・ ストーリー、絵を活かすように
- ③伝えたいことを意識しましょう。



3 いよいよ本番! 聞く人は子供にもどったつもりで!

1人ずつ①~④の順序で進めましょう。

- ① 合図があったら読み聞かせを開始しましょう。(聞き役の方は拍手!)
- ② 終了後、読み手は読み聞かせをした感想と伝えたいことを話します。
- ③ 聞いていた人は、読んでもらった感想と読み手のよかった点、改善点を伝えます。
- ④ プリントに記入します。

読んだ人	さん	さん	さん
感想			
よかった点			
改善点			

4 振り返り

①絵本の扱い方、読み聞かせの方法について感じたり考えたりしたことを自由に書いてください。

②「こどもは遊びによって育てられる」と言われますが、絵本は子供にとってどのような意味や役割があるでしょう?気づいたり、感じたことを自由に書いてください。

2年組番氏名 _____

実践例3「聴き上手を目指そう」

目的 ロールプレイにより子供の気持ちを理解し、話の聴き方、子供との接し方を考える。

場面	時間	教師の説明,指示()と生徒の学習活動(○)	指導上の留意点	評価
ライクンシスヨトン	3分	今日は親になったつもりで話を聴く練習をします。聴き上手を目指して学んでいきましょう。普段、友達や家族と話をしていて、すっきりする時と分かってもらえないと感じる時があると思います。その違いはどこにあるのでしょうか。	リラックスできる雰囲気を作ります。	
エクササイズ	5分	二人組になり席を近づけます。椅子は隣同士です。次に椅子を移動し向き合ってください。どうですか？次に、話しやすい椅子の位置に自由に変えてください。椅子の向きを変える。椅子の向きを少し内側に向けると話し易くなります。	<u>椅子の向きを変えさせるだけでも、心理的に大きな違いが実感できる。このエクササイズで生徒の緊張を解きほぐす。</u>	積極的に取り組んでいるか。 (関心・意欲・態度)
	10分	聞く練習に入ります。先に聞き手になる人を決めてください。話す役割の人は、最近気になること、うれしかったことなど、どんどん話してください。聞き手は普段どおりに話を聞きます。時間は1分です。「終わり」というまで話してください。順番を決め、話をする。終わりです。役割を交代します。役割を交代し、話をする。やめてください。では、どんな聴き方をするとよいと思いますか。気づいたことをプリントに記入する。	話し手と聞き手の役割を明確にし、時間を伝えることで話しやすくなる。教師が、話をしてみせると取り組みやすい。 生徒から意見を聞き、うなずきや態度などで相手に関心をもっていることを示すことが大切であると説明する。	聴く練習に積極的に取り組んでいるか。(関心・意欲・態度)
	10分	聴き方に気を配り、親になったつもりで子供の話を聞いてみます。プリントの場面からはじめます。子供役の方は小学1年生になったつもりで、お母さん、お父さんに90点をとった報告をしてください。嬉しそうに言ってくださいね。親役の方はその言葉に答えてみましょう。役割は交代するので、順番を決めてください。それでは始めます。役割を交代して始めてください。どうでしたか。次に場面30点をとった報告をしょんぼりとしてみましょう。役割を交代します。ロールプレイをする。親役の方からの言葉でどんな気持ちになりましたか。返答したこと感じたことをプリントへ記入。	役割や進め方を明確に伝える。話が進まないグループに声かけをする。 <u>子ども役の生徒には90点の場面では「うれしそうに様子」で報告するように強調し、30点の場面では「しょんぼりとした様子」で報告するように強調する。</u>	ロールプレイに積極的に取り組んでいるか。(関心・意欲・態度) あいづちや態度などに気を配り聴くことができているか。(技能・表現)
シェアリング	12分	どんな言葉がけがありましたか。自分の言葉がけを黒板に書く。黒板に書かれた言葉を、ほっとする言葉とそうでない言葉に分けてみましょう。その違いはなんだと思いますか。どんな言葉がけがよいかをプリントへ記入する。60点の場合どんな返答をしますか。「平均点は？」と聞く人もいるかもしれません。それはテストの点を評価しようとするからですね。	多くの生徒の言葉がけを取り上げたいので、黒板に生徒の返答を書かせるように促した方がよいが、時間がない場合は数人に発表させる。 <u>黒板に書かれた言葉を「評価の言葉」と「共感の言葉」に分類する。</u>	聴き方について気づきが得られたか。(思考・判断)

ま と め	10 分	「聞く」と「聴く」の違いは何でしょうか。聴くというのは耳と心で大きくことです。子供の言葉だけでなく子供の「うれしかった」「しょんぼりした」気持ちを聴いて受け止め言葉で返すことができるとういことです。それは評価とは反対の「共感」するということです。最後に、今日の授業を通して気づいたこと感じたことを自由に書いてください。	親は子供を評価する言葉（「えらいわね」「だめじゃないの」など）をかけてしまいがちだが、子供の心を受け止めることの大切さに気づかせる。
-------------	---------	---	--

《生徒をのせるちょっとしたコツ》

コツ	椅子の向きを変えるエクササイズは、取り組みやすく効果が実感できエクササイズの導入として最適です。向き合うと緊張しますが、真横でも相手の顔が見えません。八の字に椅子を向けることが話しやすいムードを作ります。				
コツ	ロールプレイではのれない生徒もいます。教師が「うれしそうに」「しょんぼり」と子ども役になってみせることでハードルが下がります。				
コツ	<table border="1"> <tr> <td>「評価」の言葉</td> <td>「すごい」「えらい」「よくやった」「お金あげる」「あと10点は？」</td> </tr> <tr> <td>「共感」の言葉</td> <td>「がんばったね」「よかったね」「残念だったね」「かなしかったね」</td> </tr> </table> <p>親が子どもに対して評価の言葉を使ってはいけないのではなく、「共感」の大切さを伝える。たとえば30点の場合「気にするなよ」ではなく、「残念ね、どうしようか？一緒にもう一度やってみる？」という言葉がけの大切さを伝えるようにしています。</p>	「評価」の言葉	「すごい」「えらい」「よくやった」「お金あげる」「あと10点は？」	「共感」の言葉	「がんばったね」「よかったね」「残念だったね」「かなしかったね」
「評価」の言葉	「すごい」「えらい」「よくやった」「お金あげる」「あと10点は？」				
「共感」の言葉	「がんばったね」「よかったね」「残念だったね」「かなしかったね」				

《授業プリント》

聴き上手を目指そう！
 家族や友達など話を聞いてもらい、ほっとしたり、すっきりしたり、安心したことがありますよね。一方で話をしても、聞いてもらえていない！わかってもらえていない！と感じたこともあると思います。今日は「話を聴く」技術を高めていきましょう。

1 話を聴く前に・・・話しやすい座り方って？

2 2人組で話し手、聞き手を決め、話を聞いてみましょう。
 じゃんけんをします。勝った人は、最近気になること、楽しかったことなどをどんどん話してください。負けた人は話を聴いて下さい。役割は交代します。時間はそれぞれ1分です。
 ＊どんなふうに聞くとよいと感じましたか？

3 幼児と話を聴くときに気をつけたいこと

4 2人組に戻り、親と子の役割を決め、ロールプレイをしてみましょう。
 じゃんけんをします。勝った人は子供(小学1年のともちゃん(ともくん))の役割、負けた人は親の役割になります。役割は交代します。
 《場面①》子供が学校の算数のテストで90点をとって嬉しそうに帰ってきます。
 子供「お父さん(お母さん)、テスト90点だったよ！」
 親「……………」

1回目	親役()さんor自分	返答「 」
2回目	親役()さんor自分	返答「 」

親役の人から言われた言葉でどんな気持ちになりましたか？

《場面②》子供が学校の算数のテストで30点をとってしょんぼりとかえってきます。
 子供「お父さん(お母さん)、テスト30点だった……………」
 親「……………」

1回目	親役()さんor自分	返答「 」
2回目	親役()さんor自分	返答「 」

親役の人から言われた言葉でどんな気持ちになりましたか？

5 振り返り・まとめ
 ① 他の人のセリフを聞いてみよう

90点のとき	30点のとき
--------	--------

② どんな言葉がけをするとよいと感じましたか？
 ()
 ～最後に今日学んだことをまとめてみましょう。～
 ③ 聴くことや子供とのかかわり方について、気づいたり、感じたことを自由に書いてください。

2年組番氏名

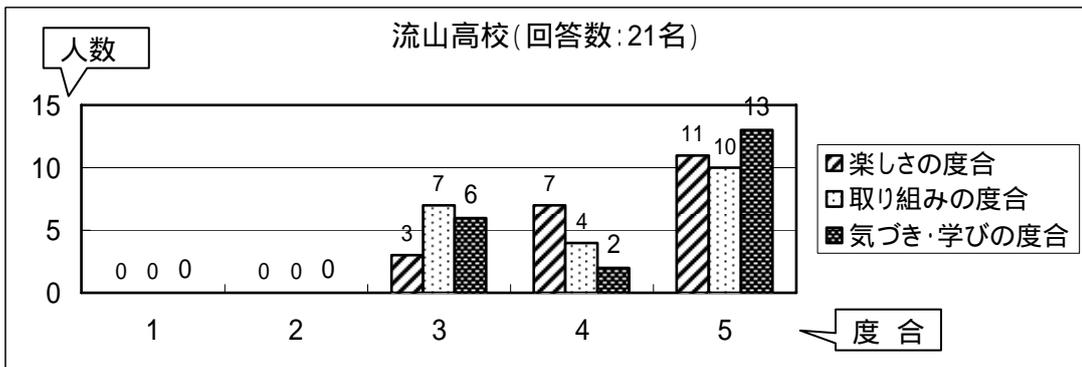
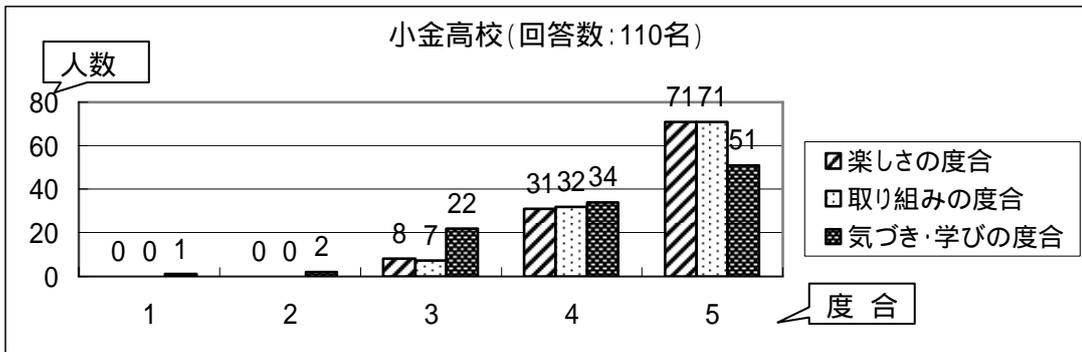
(5) 考察

ア 事後アンケート調査と生徒の感想

実践授業後のアンケート結果と感想（各授業の終わりに実施）

質問項目	
・今日の授業は楽しかった	そう思わない(1 2 3 4 5)そう思う
・今日の授業はよく取り組めた	そう思わない(1 2 3 4 5)そう思う
・今日の授業は気づきや学びがあった	そう思わない(1 2 3 4 5)そう思う

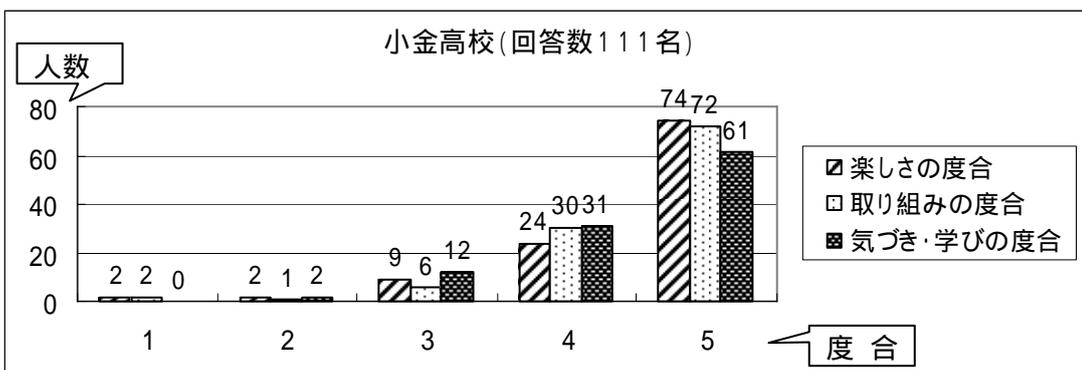
実践例1「青年期と自立～私の印象は?～」

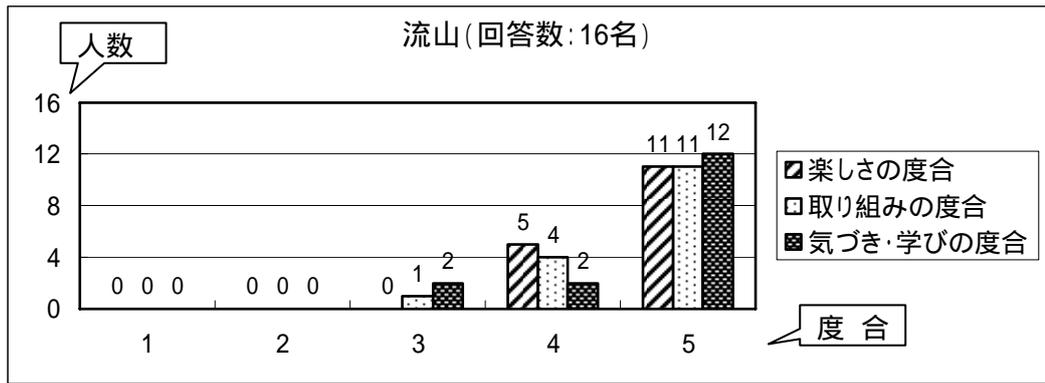


《生徒の感想》

- ・自分も青年期に突入していると思った。進路や自分のやりたい事、やらなきゃいけない事、悩みは尽きない。自分自身を理解することが重要だと思う。今回の授業では周りからどう思われているか、意外な自分の一面があると思った。
- ・先生の話聞いて、15歳は第2の誕生ってまさにそうだったと思いました。今はトンネルの中というもその通りで、自分の嫌な面を自覚したところです。青年期という自分を見つめる時期にたくさん考えて成長したいです。

実践例2「絵本の読み聞かせに挑戦!」

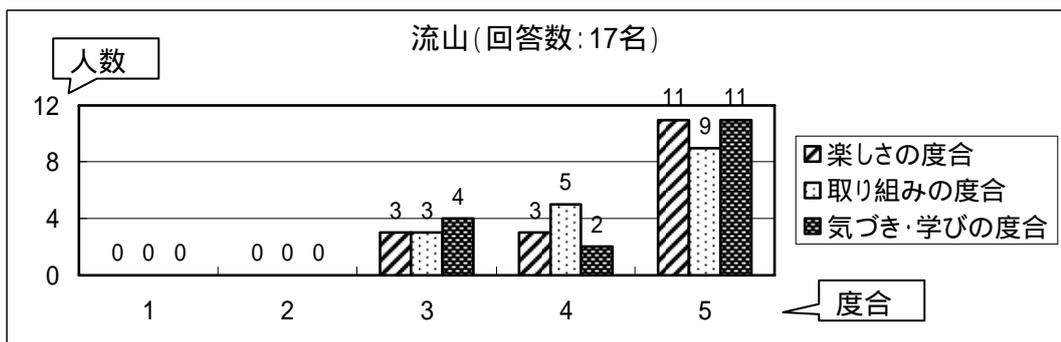
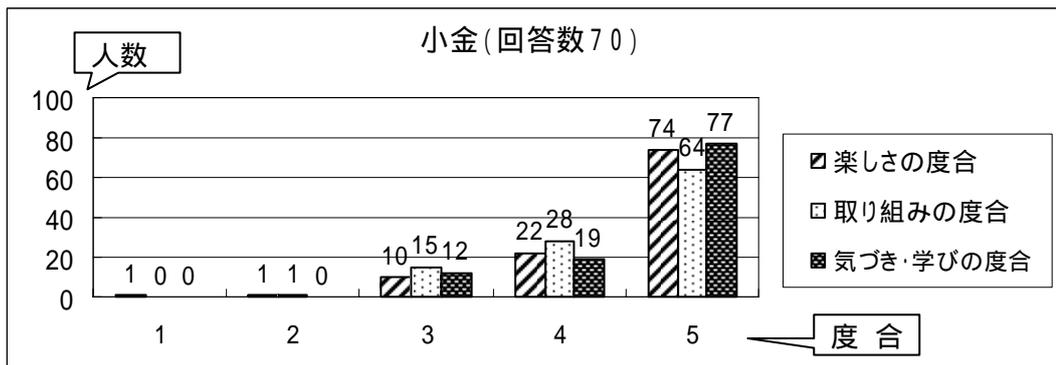




《生徒の感想》

- ・ 1冊1冊に込められたメッセージは、成長していく過程で子どもの心に残る感じました。大人から読んでもらうことによって安心感が得られし、コミュニケーションをとるためにとても優れていると感じました。
- ・ 絵本を読むことで「次は何？どうなるの？」という感じで子どもの関心をひきつけていくところがよいと思いました。子どもに興味をもたせたり、教訓になったり、子どもの心の発達に大事だと思いました。
- ・ 子どもは物語性がなくても絵を見て楽しむことができると思った。絵本は繰り返しが多くて、同じリズムで読むと子どもはそのリズムを覚えて楽しんでいく気がする。

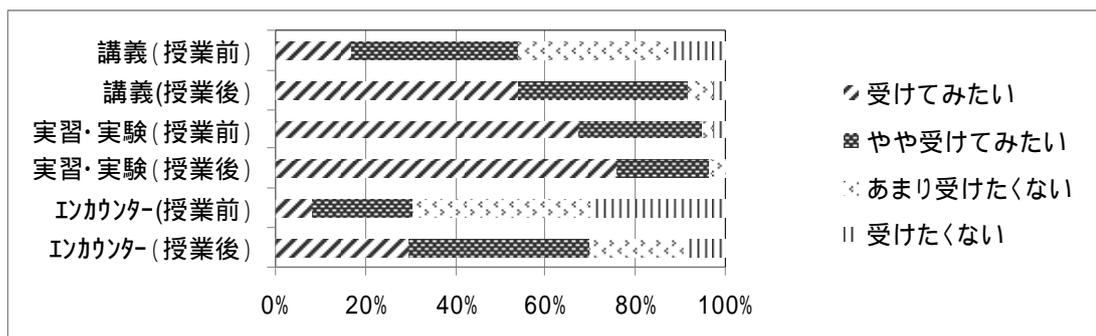
実践例3「聴き上手を目指そう」



《生徒の感想》

- ・ 相手との席の関係で緊張感が生まれることに驚いた。
- ・ 斜めに座って話をきくってということにはとても納得させられました。いつか話すほうのコツも知りたいと思いました。
- ・ 親は評価ばかりだから腹が立つのだと思った。ちゃんと子どもを見て子どもの気持ちを受け止めてあげなきゃと思った。
- ・ 点数で評価しがちなのはよくないと気づけてよかった。

生徒が求める授業像アンケート（授業後アンケートと事前アンケートの比較）



イ 考察と今後の課題

エンカウターを取り入れた授業後に実施したアンケートや感想を見ると、いずれの実践でも肯定的な評価がされている。授業後に実施した「生徒が求める授業像」についてのアンケートでも、実施前に否定的な評価が多かったエンカウターについて、実施後は肯定的な評価が約2倍に増加した。生徒たちは、エクササイズに楽しく参加し取り組む中で、教師が生徒に気づかせたいと意図したこと以外にも、自らの生い立ちを思い起こしながら様々な「気づき」を得ていた。生徒たちに知識や技術を注入するのではなく、体験して気づかせるという学び方により、生徒は心を動かし、多様な「気づき」や「学ぶ喜び」を得ていると感じた。加えて、講義形式の授業についても肯定的な評価が大きく増加した。これは、単元の中にエンカウターを取り入れたことによる効果であると感じている。エンカウターにより、生徒の学習内容に対する興味関心が高くなり、講義形式の授業への集中力や取り組みにプラスの効果が見られた。授業が楽しければ、家庭科が好きになり、好きになるから興味が増し、学びたくなる、というよい循環が生まれたように思う。今後、限られた時間の中で体験的な学習を効果的に取り入れ、生徒の学びたいという気持ちを換気するような授業の組み立てを考えていく重要性を感じた。

4 おわりに

これまで、「授業は楽しく」、「生徒が主役で」、「ためになる」、をキーワードに試行錯誤を重ねてきた。そんな中で、エンカウターという手法に出会い、授業に組み入れることを始めた。本研究にエンカウターを取り入れるにあたり、これまで試みたエンカウターらしきものをしっかりと型にはめたエンカウターの授業に組み替えた。このことにより、授業にリズムが生まれ、生徒の取り組みがよくなったように思う。保健室で、前の時間まで休んでいた生徒が「家庭科だから授業に出る」という生徒もおり、生徒たちの「自己理解」、「話の聴き方」などへの興味関心の高さと、エンカウターのもつ力にあらためて気づくこともあった。研究を始めて、2年目に転勤があり、赴任したばかりで人間関係ができていない生徒たちにエンカウターという手法を用いることに不安もあったが、初回の授業で、本研究の実践例1「青年期と自立～私の印象は?～」を実施した。生徒の反応は良好で、生徒の個々の状況を把握することにもつながったと感じている。生徒の様子が異なる2つの学校で実践できたことで、エンカウターが授業にもたらす効果をより実感することもできた。このような研究の機会を与えてくださった先生方、ご指導いただいた先生方、研究に協力していただいた勤務校の先生方、授業でエネルギーをくれた生徒たちに心から感謝致します。

5 参考文献

- | | | |
|---------------------------|------------------|--------|
| 「エンカウターで学級がかわる高等学校編」 | 国分康孝監修 | 図書文化社 |
| 「エンカウターで学級がかわる中学校編」 | 国分康孝監修 | 図書文化社 |
| 「効果10倍の学びの技法」 | 田新一郎, 岩瀬直樹著 | PHP研究所 |
| 「学校でのピア・サポートのすべて」 | 中野武房, 日野宜千, 森川澄男 | ほんの森出版 |
| 家庭総合 生活の創造をめざして 教授用総合指導資料 | 子どもを育てる | 大修館書店 |